

背景

学修成果等エビデンスをもとにした教育改善の必要性

- グランドデザイン答申（2018）、教学マネジメント指針（2020）

① 「三つの方針」に基づく体系的で組織的な大学教育を展開し、その成果を学位を与える課程（学位プログラム）共通の考え方や尺度に則って点検・評価を行うことで、不断の改善に取り組む
 ② 学生の学修成果に関する情報や大学全体の教育成果に関する情報を的確に把握・測定し、教育活動の見直し等に適切に活用する
 =学修者本位の教育への転換に必要な情報収集と改善（学修成果の可視化と教育の質保証取り組み）

教学マネジメント指針内、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を示すエビデンスの1つとして「学生の成長実感・満足度」、「卒業生からの評価」が例示
 =在学時から卒業後にかけて、学生の学びの成果を継続的に把握し、その結果を反映した教育を行うことが求められている。

- 短期大学における卒業生への意見聴取やアンケート等調査の実態

253短期大学の自己点検・自己評価報告書を調査した結果、117の短大が卒業生調査の実施あり。多くで回答数が少ないことや単年でしか調査が行われていない。十分な回答がないことで教育改善等の活用まで至っていない現状（山崎，2018）。

短期大学に対して卒業生調査に関するアンケートを実施。

120校中90校が実施あり。実施頻度（スパン）は、毎年実施43校、2年に1度は4校、3～5年に1度は9校、期間不定37校、半数近くが卒業生調査を毎年実施（宮里ほか，2019）。

- ◎自己点検・自己評価に活用できる全国規模の共通設問による卒業生調査の開発とフィードバック方法の検討

参加短大の評価活動の更なる改善に資するため、在学生調査との比較を可能にして、在学時－卒業後の状況が継続的に把握できるようにする必要がある。
 =短期大学の卒業生が在学時と卒業後で、短期大学教育に対する評価がどのように変化するかを明らかにしたい。

表2: 分析対象

	短期大学生調査 (2019)	卒業生調査 (2020)		
	在学生 (2年生)	卒業後 (社会人1年目)	依頼数 ※参考	回答率 ※参考
A短大	62	19	68	28%
B短大	256	60	262	23%
C短大	88	25	81	31%
D短大	50	25	52	48%
E短大	25	9	21	43%
F短大	116	40	152	26%
G短大	27	2	22	9%
H短大	113	51	113	45%
I短大	268	24	238	10%
J短大	114	36	120	30%
K短大	163	26	111	23%
L短大	222	48	156	31%
M短大	54	19	59	32%
N短大	87	43	91	47%
O短大	48	17	44	39%
P短大	102	5	88	6%
Q短大	97	27	105	26%
R短大	130	41	110	37%
S短大	23	14	27	52%
T短大	185	48	189	25%
U短大	99	46	102	45%
計	2329	625	2211	28%

表1: 各調査の実施概要

	短期大学生調査（2019年度）実施概要	短期大学卒業生調査（2020年度）実施概要
調査目的	自己点検・評価などの各種評価、教学や学生支援の改善などの資料として活用できるよう、学生の学習（学修）行動や経験、その他の在学時の経験等、学習（学修）成果に関する設問や志望順位、入学方法などのアドミッションに関する設問などから構成し、情報を得られるようにする。	短期大学で教育を受けた卒業生に対して、短期大学の満足度や学習成果、短期大学への要望などを尋ね、教育成果の可視化に関する情報を得る
調査対象	大学・短期大学基準協会会員校全体に参加募集をかけ、調査を希望した79短期大学。	大学・短期大学基準協会会員校に参加募集をかけ、調査を希望した45短期大学。参加校の卒業生で、①調査実施時点で、卒業後1年目、卒業後3年目、卒業後5年目（2019,2017,2015年度未卒）②卒業時点で就職先や進路先が決まっていた者
調査方法	質問紙調査（マークシート回答） ・各校の実情に合わせて、授業中の回答や持ち帰り回答などで実施。	各校の卒業生に調査依頼文書を送付、文書に記載のQRコードを読み取って調査専用のウェブページにアクセスしてもらって回答
実施時期	2019年9月～12月上旬の約3か月間	2020年7月末～9月中旬の約1.5か月間

研究目的

調査概要

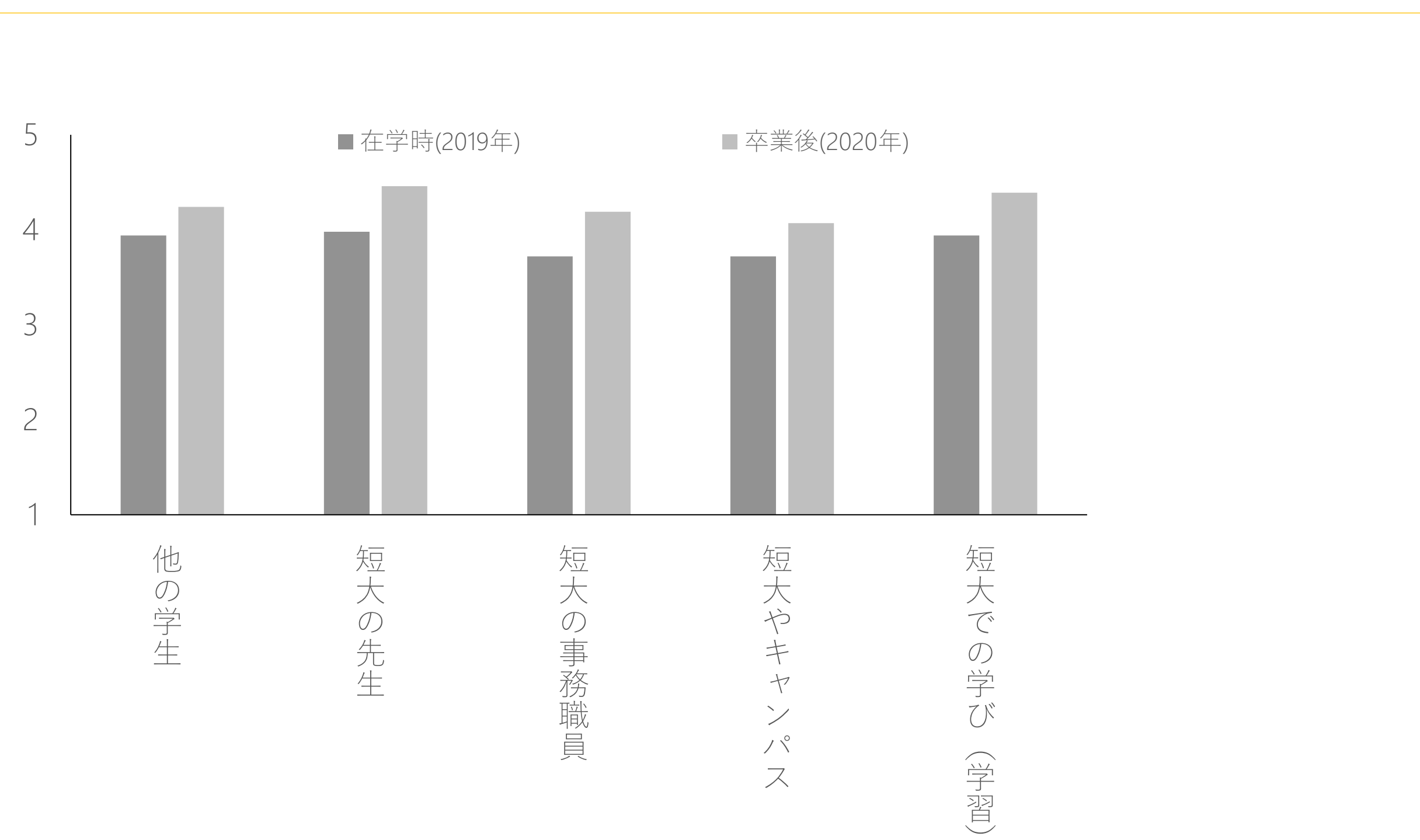


図1: 短期大学の総合評価とt検定の結果

- 短期大学教育に対する総合評価が「肯定的（5）」～「否定的（1）」の5件法で回答。在学時（2019年）、卒業後（2020年）を比較するため、平均値の差の検定（t検定）を実施。
- すべての項目で卒業生の方が1%水準で有意に平均値が高かった

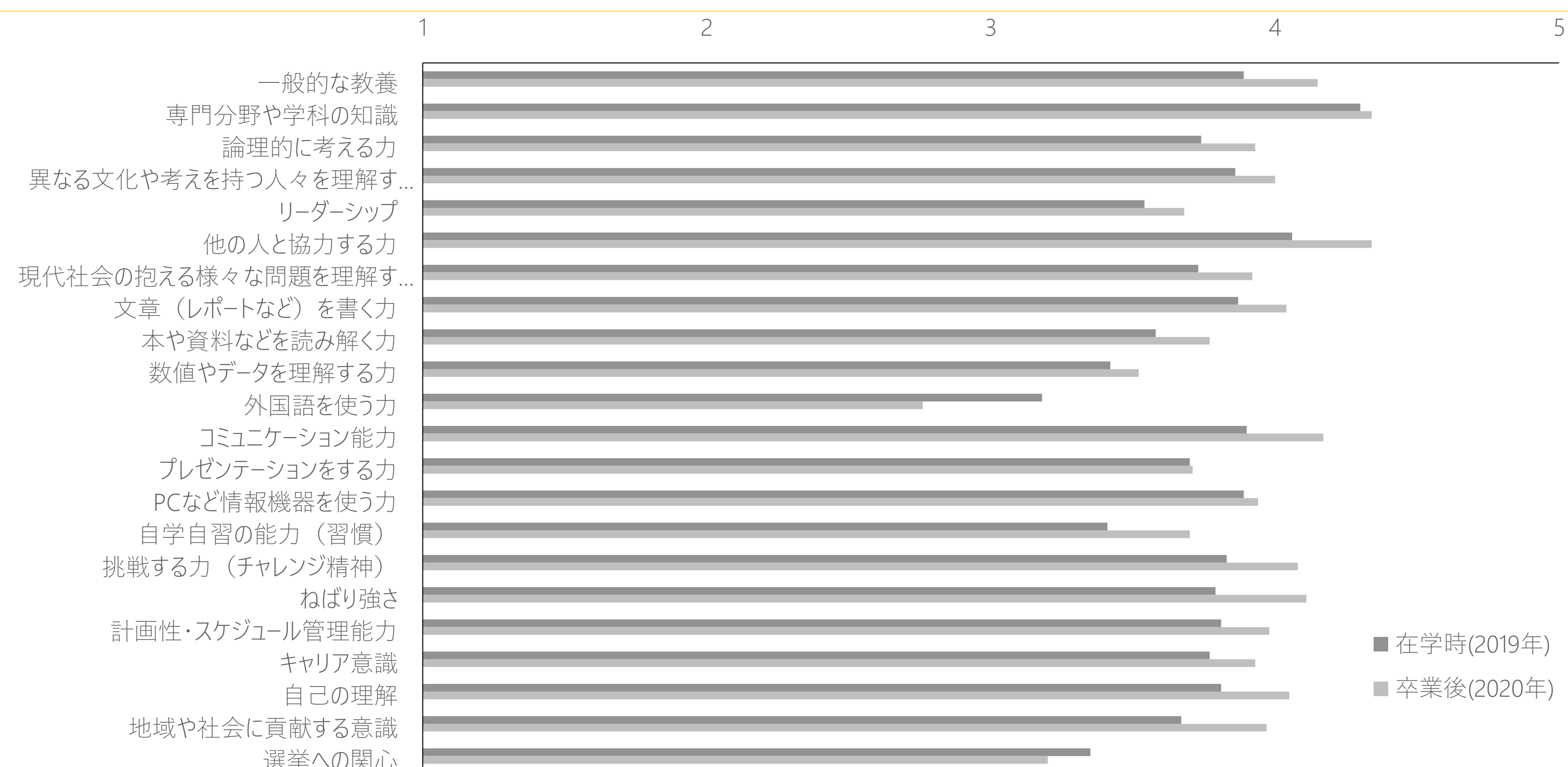


図2: 短期大学教育の役立ち度と変化

- 短期大学で学んだことが「役に立った（5）」～「役に立たなかった（1）」の5件法で回答。ただし、在学生向けの短期大学生調査では「大きく増えた（5）」～「大きく減った（1）」といった能力等の変化を回答。在学時（2019年）、卒業後（2020年）を比較するため、平均値の差の検定（t検定）を実施。
- 「専門分野や学科の知識」「プレゼンテーションをする力」「PCなど情報機器を使う力」の3項目は有意な差がでず。「数値やデータを理解する力」は5%水準で、それ以外の18項目は1%水準で有意な差があった。

研究結果

表3: 短期大学教育の役立ちに関する20項目を因子分析（最尤法・プロマックス回転）

	因子1	因子2	因子3	共通性
因子1 セルフコントロール・マネジメント				
挑戦する力（チャレンジ精神）	.879	.028	-.102	.685
ねばり強さ	.840	-.041	-.032	.622
計画性・スケジュール管理能力	.731	.062	-.059	.537
キャリア意識	.629	.134	.019	.553
自己の理解	.613	-.048	.211	.554
コミュニケーション能力	.580	-.056	.228	.518
地域や社会に貢献する意識	.509	.058	.229	.543
自学自習の能力（習慣）	.491	.422	-.172	.513
他の人と協力する力	.468	-.106	.362	.481
因子2 ジェネリックスキル				
本や資料などを読み解く力	-.091	.835	.104	.719
数値やデータを理解する力	-.101	.833	.057	.649
文章（レポートなど）を書く力	.041	.567	.139	.495
PCなど情報機器を使う力	.194	.472	-.127	.284
プレゼンテーションをする力	.313	.439	-.004	.478
自学自習の能力（習慣）（再掲）	.491	.422	-.172	.513
外国語を使う力	.077	.414	.124	.324
因子3 アカデミック・エンゲージメント				
一般的な教養	-.036	-.057	.751	.471
異なる文化や考えを持つ人々を理解する力	.074	.019	.678	.557
論理的に考える力	.018	.176	.641	.622
専門分野や学科の知識	-.050	.084	.582	.371
現代社会の抱える様々な問題を理解する力	.226	.185	.453	.614
	-	.696	.718	
因子間相関		-	.708	
			-	

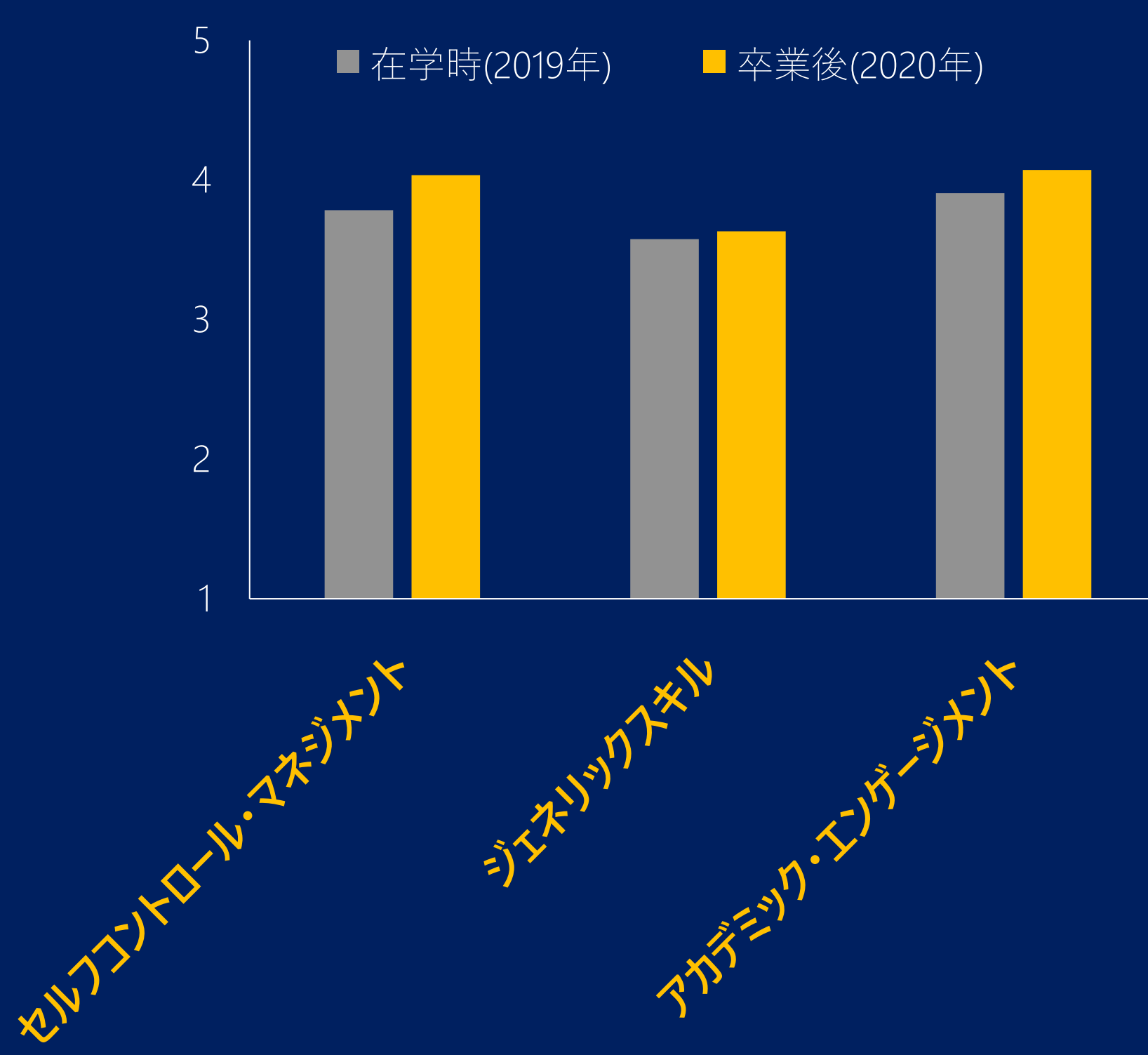


図3: 3因子による在学時（2019年）と卒業後（2020年）の比較

3因子の因子得点を算出し、在学時（2019年）、卒業後（2020年）を比較するため、差の検定（t検定）を実施

⇒「セルフコントロール・マネジメント」および「アカデミック・エンゲージメント」の2因子で1%水準で有意な差がみられ、卒業後の方が在学時より好結果に。（「ジェネリックスキル」は10%水準）

考察

- 短期大学教育の満足度、知識能力の役立ち（変化）について、ほとんどの項目で、卒業後の方が在学時より肯定的な評価（平均点が高い傾向で有意差あり）⇒在学時も3.0以上と評価が高いが、卒業後はさらに短期大学における教育内容に対する評価が上がっている印象を受ける。
- 在学と卒業を挟んで1年間の職業経験や社会経験を踏まえて、短期大学教育を改めて評価してもらったが、卒後1年目の段階では在学時より高い評価を行う傾向⇒卒業生が感じている短期大学の教育効果はどのくらい継続するか。卒後1年目だとまだ在学時の記憶が鮮明で評価があまり変わらない可能性も？

検討課題

- 回答者の偏りの可能性
在学時に短期大学生調査で肯定的な評価をしていた卒業生に関しては、母校に良いイメージを持っている人や短期大学教育の効果を実感している人など、卒業生調査に回答している可能性⇒今回と同じ卒業生の回答集団の評価にどう変化が生じるか継続的に見ていく必要性。そのためには卒後年数が経っても回答率を下げない工夫も必要
- アンケート調査では把握できない卒業生の在学時の教育等を評価した理由や背景を把握
⇒在学時に短期大学生調査に回答したことがあり、かつ卒業生調査にも回答したことがある卒業生に対して、直接ヒアリング調査を実施し、在学時の経験や卒業後の経験などが短期大学教育の評価に影響を与えているか。

卒業生は短期大学をどのように評価しているか

— 在学時調査と卒業後調査の比較 —

- 堺 完（大分大学）○宮里 翔大（桜美林大学大学院）
- 山崎 慎一（桜美林大学）黄 海玉（一般財団法人大学・短期大学基準協会）

大学教育学会
課題研究集

統一テーマ：学生が成長するための大学教育～新たな展開への挑戦@芝浦工業大学（オンライン開催）